

地域福祉計画アンケート集計結果（概要）

実施状況

（１）実施時期

平成 14 年 8 月 5 日～ 8 月 31 日（平成 14 年 8 月 1 日現在の状況を調査）

（２）対象者

次の条件で抽出した市民 5,200 人

(人)

	年齢層	中央		東		西		南		北	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1	15～19歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
2	20～24歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
3	25～29歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
4	30～34歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
5	35～39歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
6	40～44歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
7	45～49歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
8	50～54歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
9	55～59歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
10	60～64歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
11	65～69歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
12	70～74歳	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
13	75歳以上	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	合計	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520

- 1 中央地域（大町、旭北、旭南、川元、川尻、山王、高陽、保戸野、泉（JR線西側）、千秋、中通、南通、榎山、茨島、八橋）
- 2 東部地域（東通、手形、手形山、泉（JR線東側）、旭川、新藤田、濁川、添川、山内、仁別、広面、柳田、横森、桜、桜ガ丘、桜台、下北手、太平、大平台）
- 3 西部地域（新屋、勝平、浜田、下浜、豊岩）
- 4 南部地域（牛島、卸町、大住、仁井田、御野場、御所野、四ツ小屋、上北手、山手台）
- 5 北部地域（寺内、外旭川、土崎、将軍野、港北、飯島、金足、下新城、上新城）

（３）調査の方法

配布・回収とも郵送方式で実施し、回答は無記名とした。

（４）有効回答者数

2,559 人（49.2%）

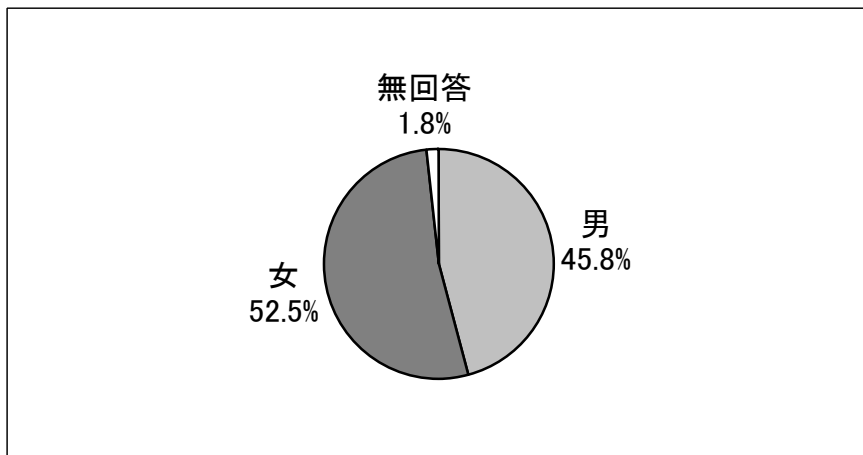
質問1 . あなたの性別と、年齢をお書きください。

性別については、男性が45.8%、女性が52.5%でした。

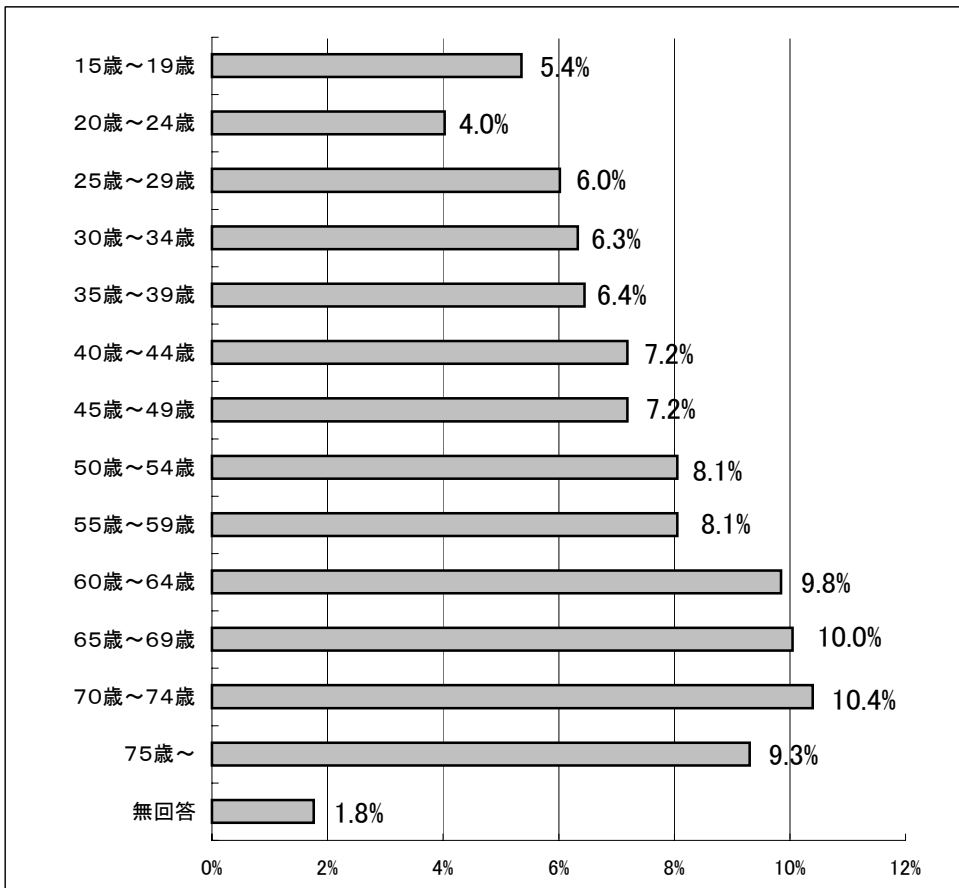
年齢については、20歳～24歳までの階層が最も低く、その次が15歳～19歳までで、若年層ほど福祉への関心が薄いことがわかります。

25歳以上については、年齢階層が上がるたびに回答率も上がり、加齢とともに福祉への関心が増していることがわかります。

性別

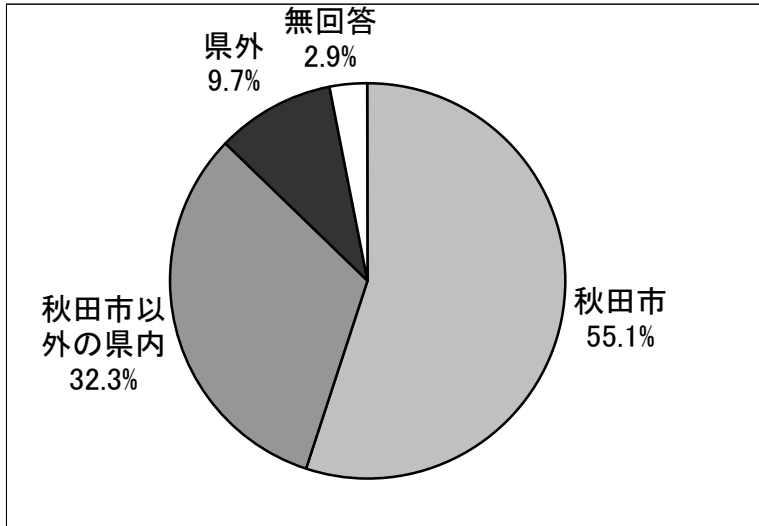


年齢



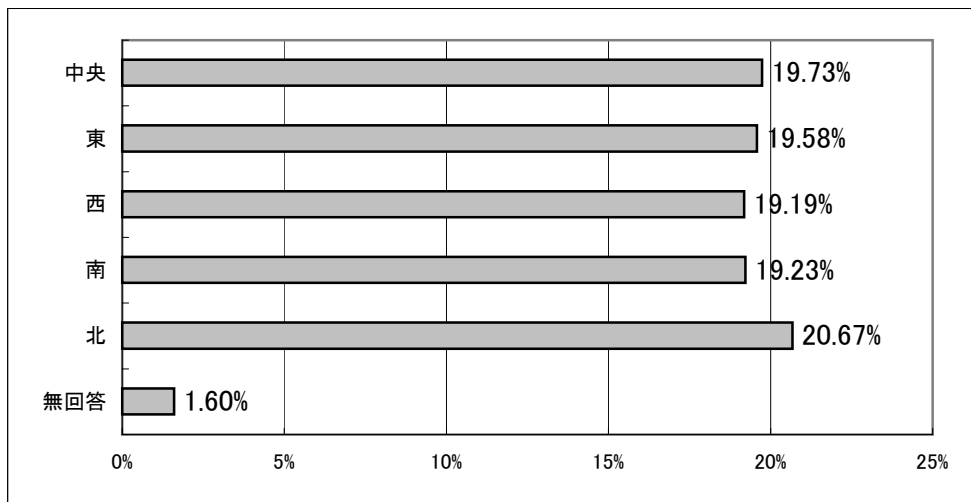
質問2 . あなたの出身地はどこですか。次のうちから1つ選んでください。

秋田市の出身者が半数を超え、秋田市以外の県内出身者も32.3%で、県外出身者は9.7%しかいませんでした。秋田市や秋田県の土地柄がよく反映される調査結果になると考えられます。



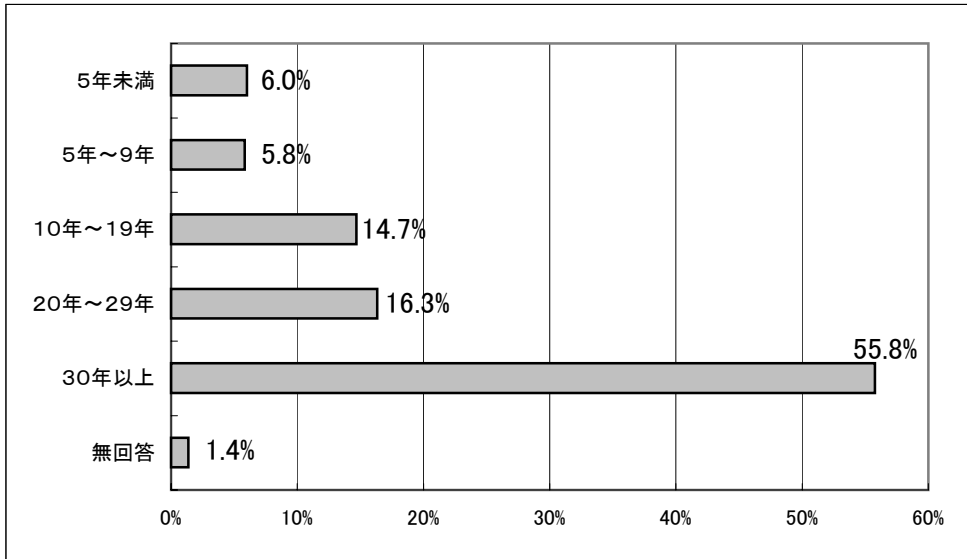
質問3 . あなたの住んでいる地域を、次のうちから1つ選んでください。

北部地域 (20.67%) が最も高く、西部地域 (19.19%) が最も低くなっていますが、開きはそれほどありませんので、地域による偏りの少ない調査結果になると考えられます。



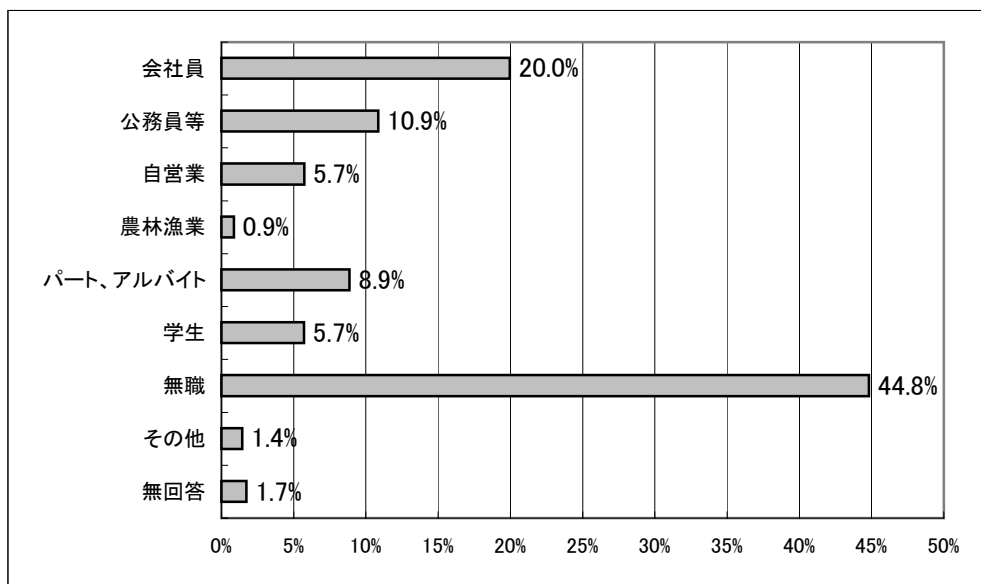
質問4 . あなたは、秋田市にお住まいになって、通算して何年くらいになりますか。

30年以上居住している人が半数を超えており、このことから秋田市の土地柄がよく反映される結果になることが考えられます。



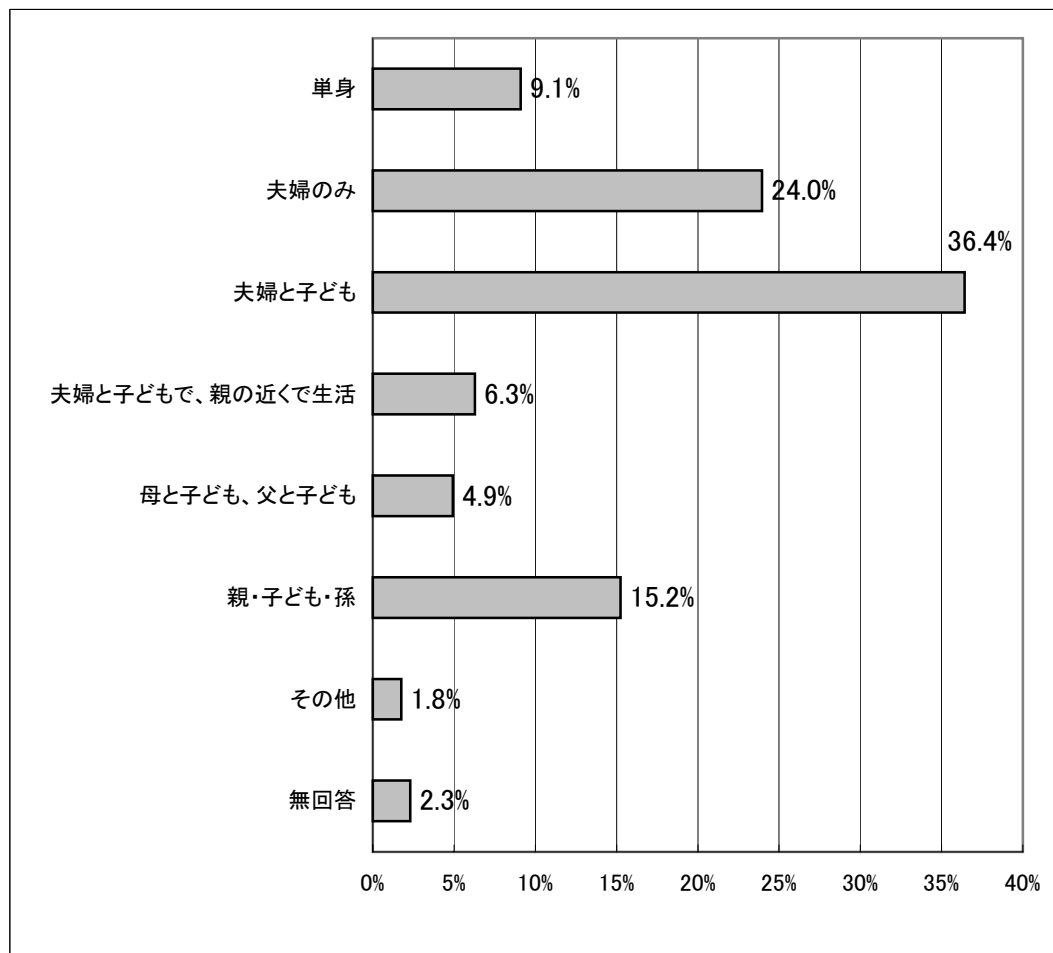
質問5 . あなたの職業を、次のうちから1つ選んでください。

「無職」が半数近くを占めていますので、日中を通して、地域の中でどのような生活スタイルが展開されているのか、ある程度の実態把握が可能だと考えられます。



質問6 . あなたは現在、どのような家族形態で暮らしていますか。次のうちから1つ選んでください。

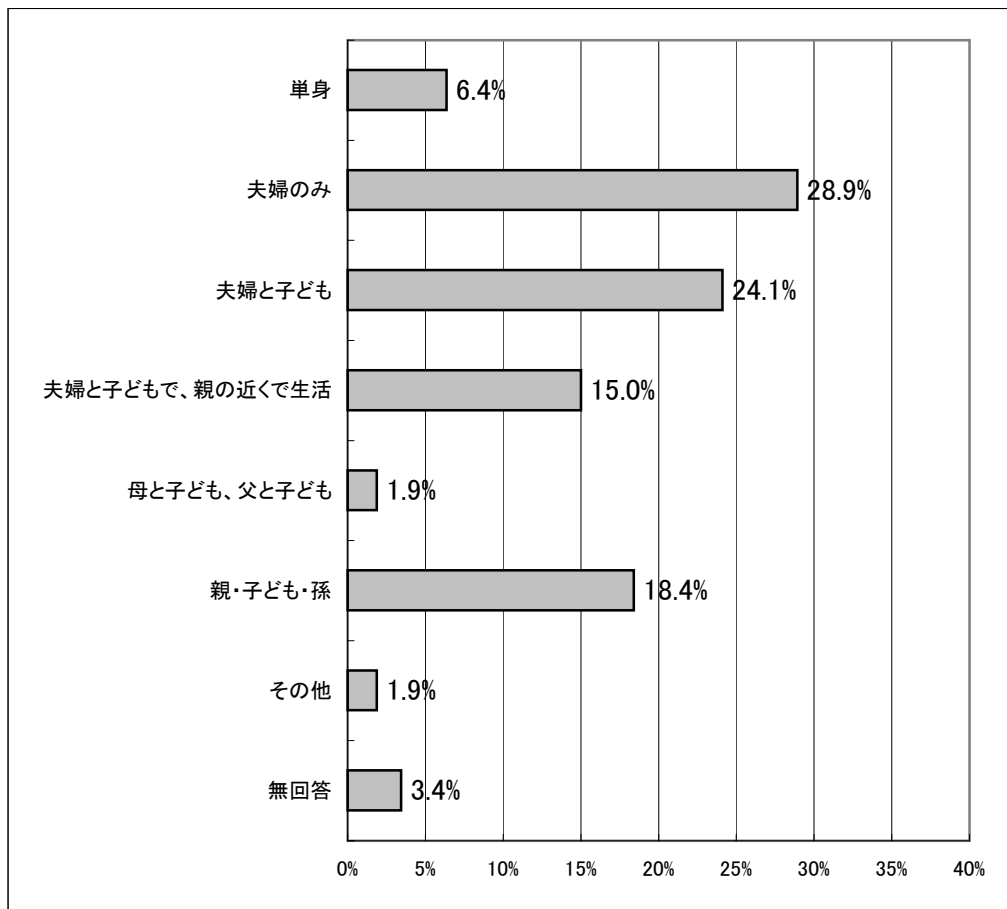
「親・子ども・孫」という3世代以上の家族が15.2%しかなく、圧倒的に核家族傾向にあることが分かります。



質問7 . あなたは将来、どのような家族形態で暮らしたいですか。次のうちから1つ選んでください。

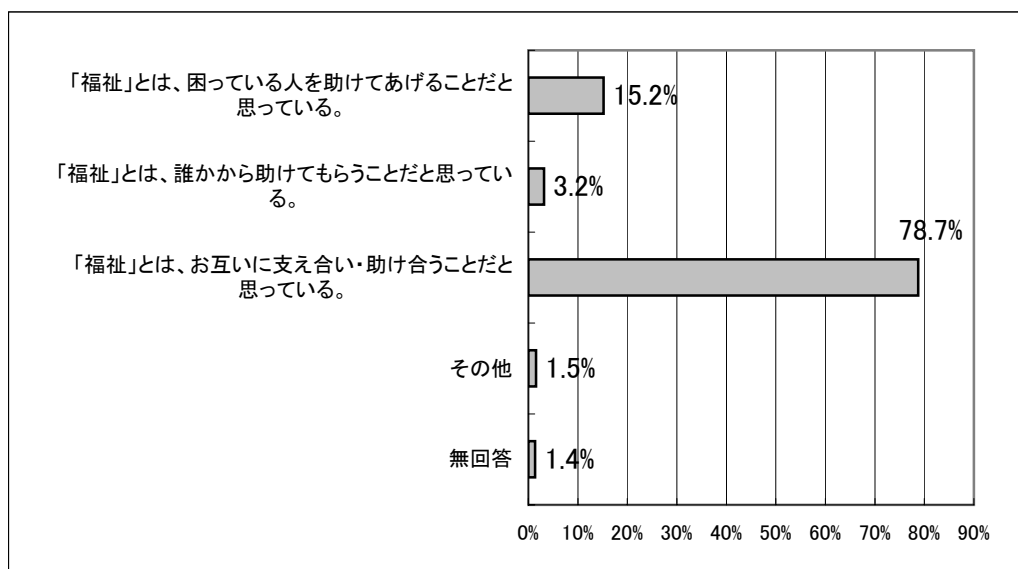
3世代以上の家族で生活したいという人が18.4%と若干増えています。

その一方で、前の質問に比べて、「夫婦のみ」で生活したいという人が、「夫婦と子ども」を抜いて第1位となるとともに、「夫婦と子どもで、親の近くで生活」も大きく伸びており、子どもが独立していくことを容認する傾向にあることがうかがえます。



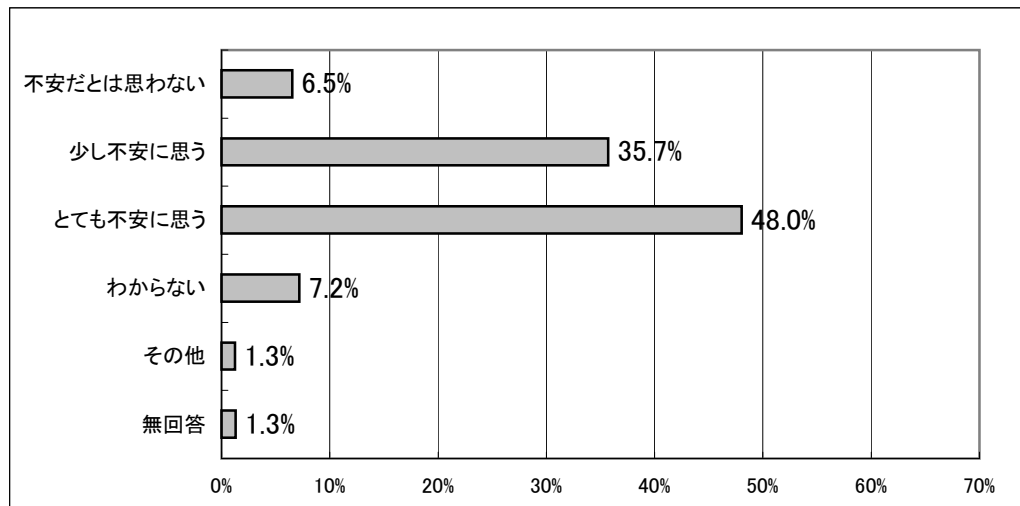
質問8 . あなたは、「福祉」という言葉を、いつもどのように感じていますか。次のうちから1つ選んでください。

「お互いに支え合い・助け合うことだと思っている」が78.7%と圧倒的に多く、多くの人が「福祉 = 支え合い・助け合い」を共通認識として持っていると考えられます。地域福祉を推進していくうえで、必ずしも悲観的な社会状態ではないといえます。



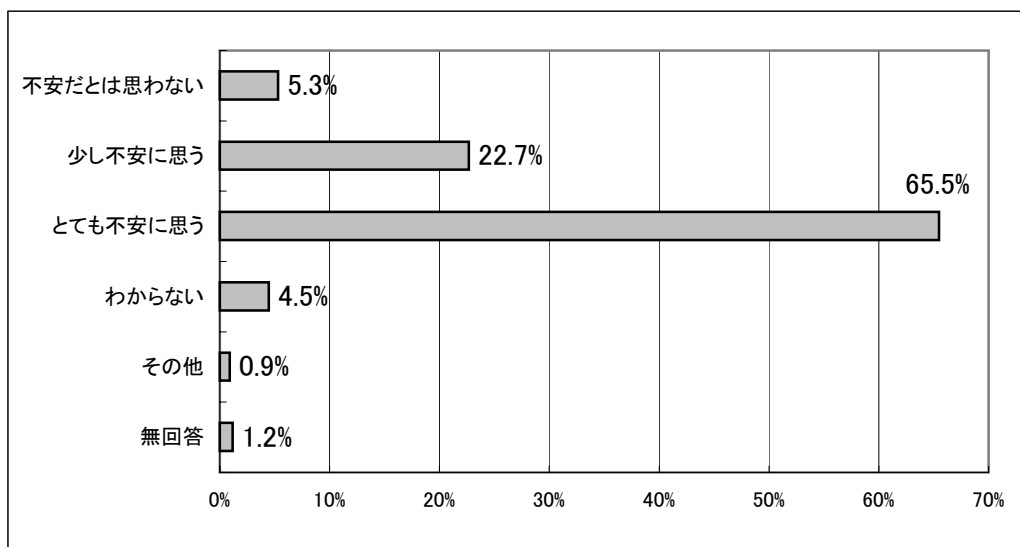
質問9 . 少子化が進んでいます。20年前の秋田市では、5人に1人が子ども（15歳未満）でしたが、現在は、7人に1人になっています。そのことについてどうお考えですか。次のうちから1つ選んでください。

「とても不安に思う」が48.0%、「少し不安に思う」が35.7%で、大多数の人が少子化に不安を感じていることがわかります。



質問10 . 高齢化が進んでいます。20年前の秋田市では、14人に1人が高齢者（65歳以上）でしたが、現在は、5人に1人になっています。（2050年頃には、3人に1人です）そのことについてどうお考えですか。次のうちから1つ選んでください。

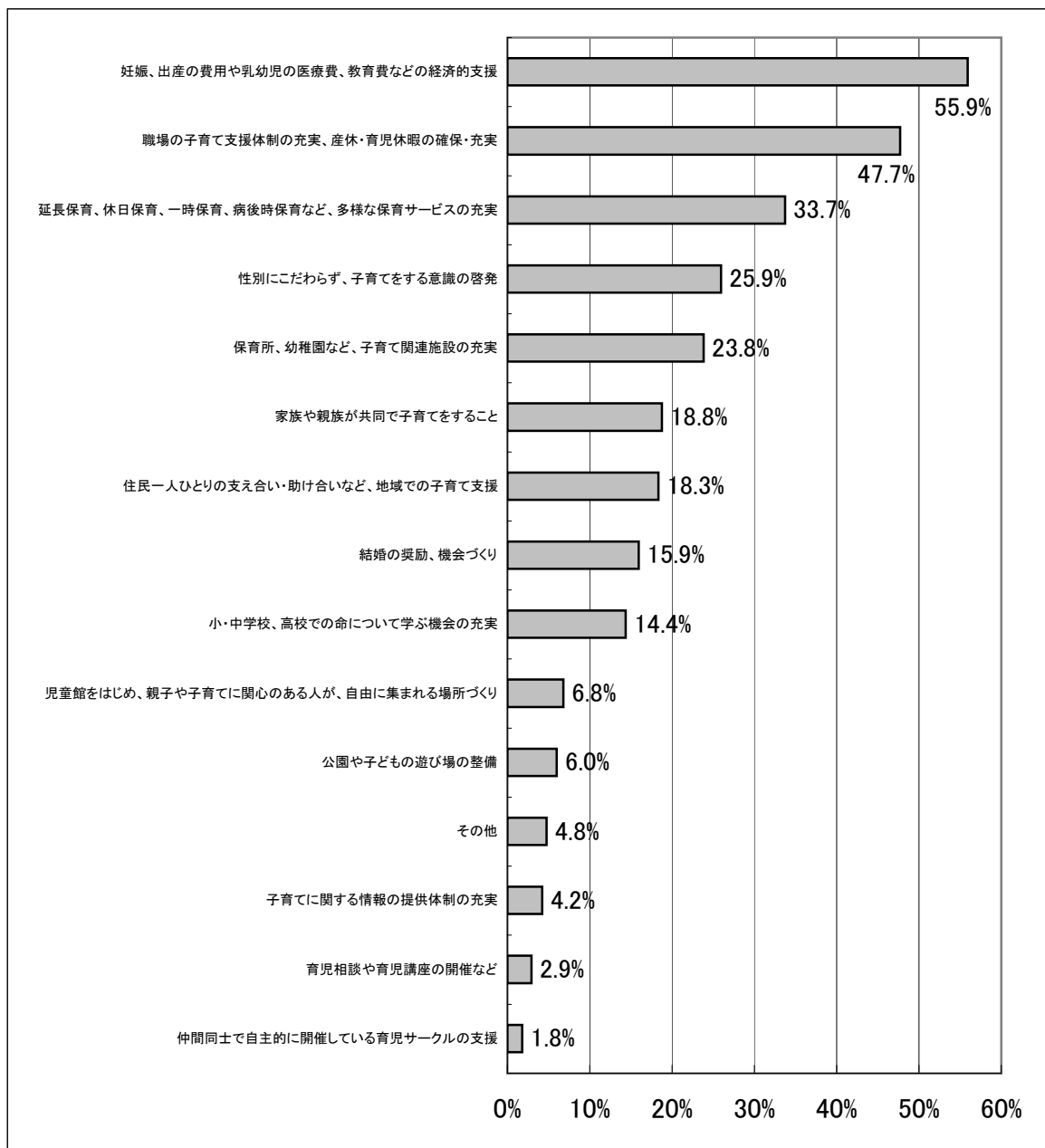
「とても不安に思う」が65.5%と半数を超えており、少子化よりも高齢化のことを深刻にとらえていることがわかります。



質問11. 少子化の対策として、あなたは何が必要だと思いますか。次のうちから3つまで選んでください。

第1位「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費、教育費などの経済的支援」(55.9%)、第2位「職場の子育て支援体制の充実、産休・育児休暇の確保・充実など」(47.7%)、第3位「延長保育、休日保育、一時保育、病後時保育など、多様な保育サービスの充実」(33.7%)が高い割合を占めており、子育て中の人たちにとって切実な問題であることが推測されます。

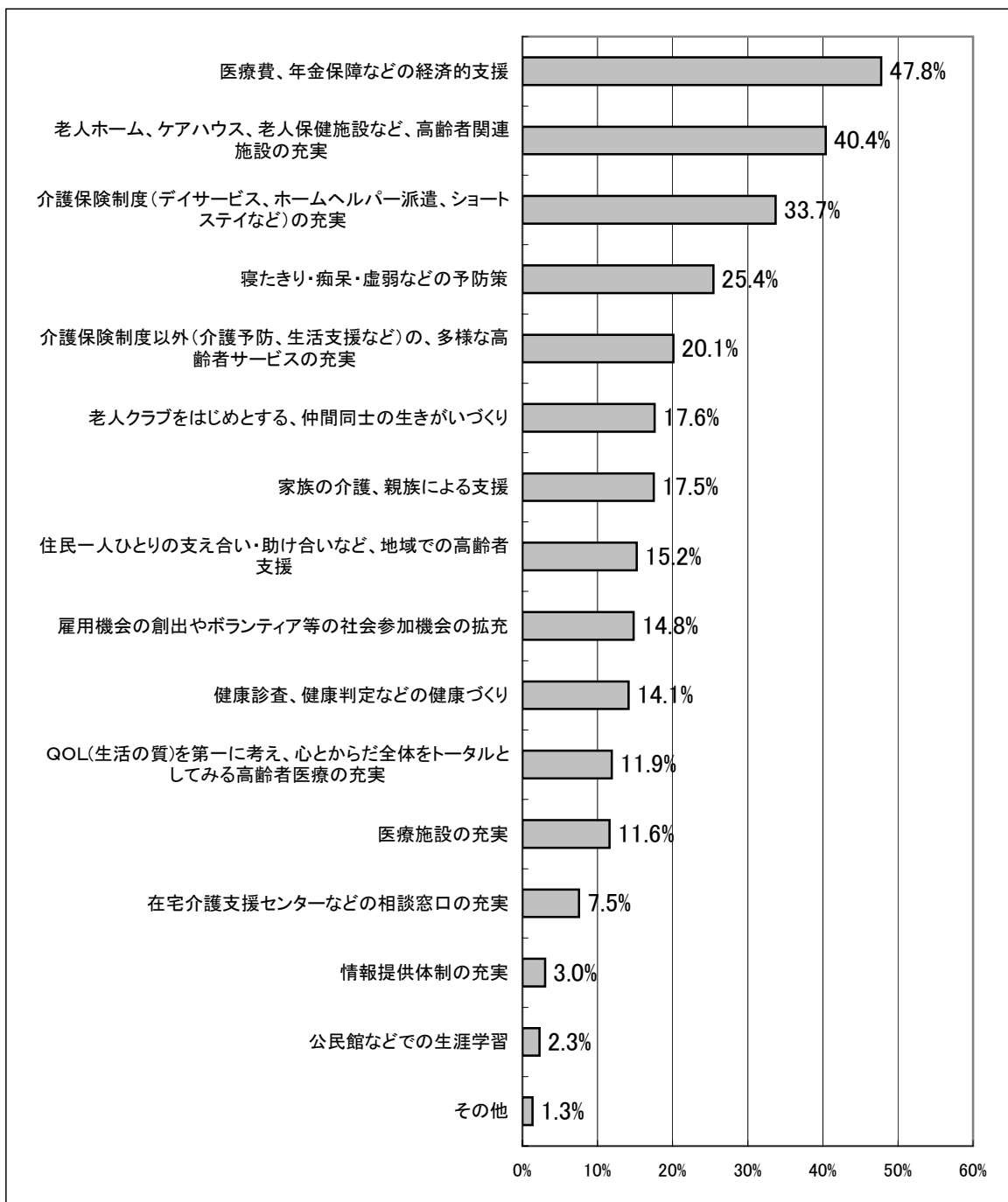
また、第4位が「性別にこだわらず、子育てをする意識の啓発」(25.9%)となっており、男女共生社会への意識が高まってきていることがうかがえます。



質問12. 高齢化の対策として、あなたは何が必要だと思いますか。次のうちから3つまで選んでください。

第1位「医療費、年金保障などの経済的支援」(47.8%)、第2位「老人ホーム、ケアハウス、老人保健施設など、高齢者関連施設の充実」(40.4%)、第3位「介護保険制度(デイサービス、ホームヘルパー派遣、ショートステイなど)の充実」(33.7%)で、高い割合を占めています。これまでに引き続き、こうしたサービスの充実が必要とされています。

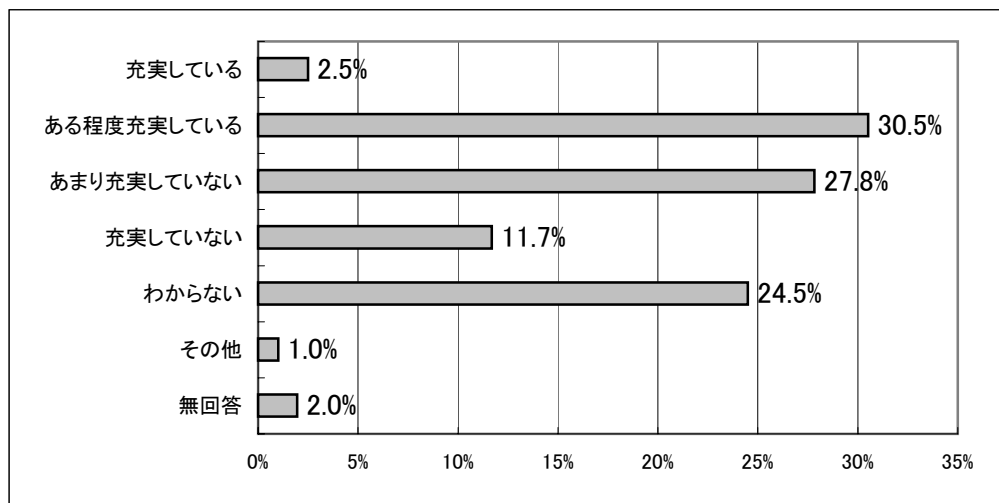
また、第4位「寝たきり・痴呆・虚弱などの予防策」(25.4%)、第5位「介護保険制度以外(介護予防、生活支援など)の、多様な高齢者サービスの充実」(20.1%)となっており、予防サービスの充実への意識も高まってきていることがうかがえます。



質問13. あなたは、現在の福祉サービスについて、どうお考えですか。次のうちから1つ選んでください。

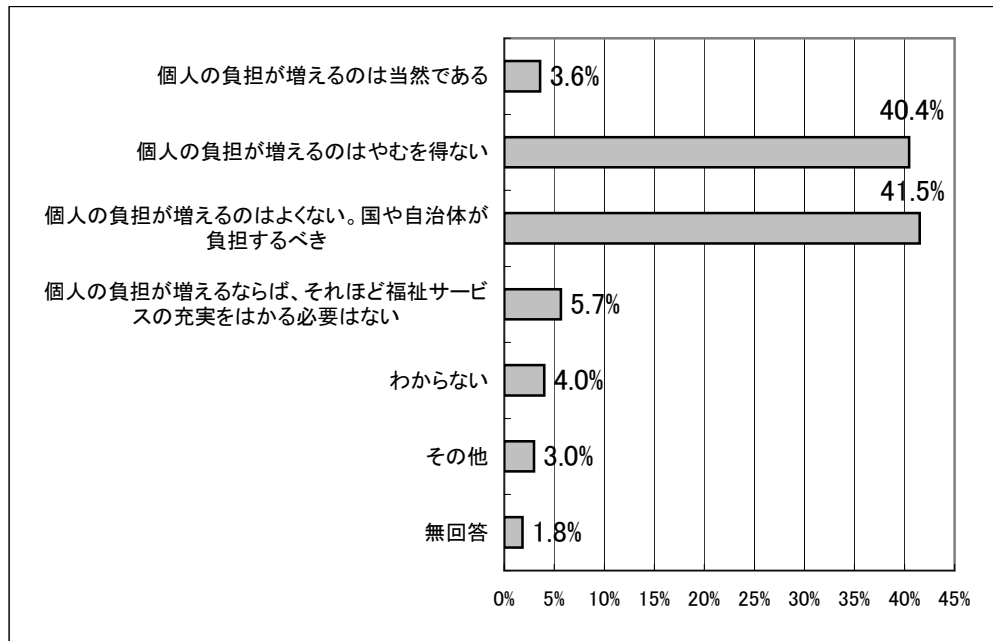
「あまり充実していない」(27.8%)と「充実していない」(11.7%)との合計が39.5%もありますが、「充実している」(2.5%)と「ある程度充実している」(30.5%)の合計も33.0%に達しています。

一方、「わからない」という回答が24.5%あったのは、現時点で福祉サービスを必要としない人にとっては、それほど関心が高くないということが推測されます。



質問14 . 福祉サービスを充実するためには、個人の経済的負担などが増えることが予測されますが、このことについてあなたはどのようにお考えですか。次のうちから1つ選んでください。

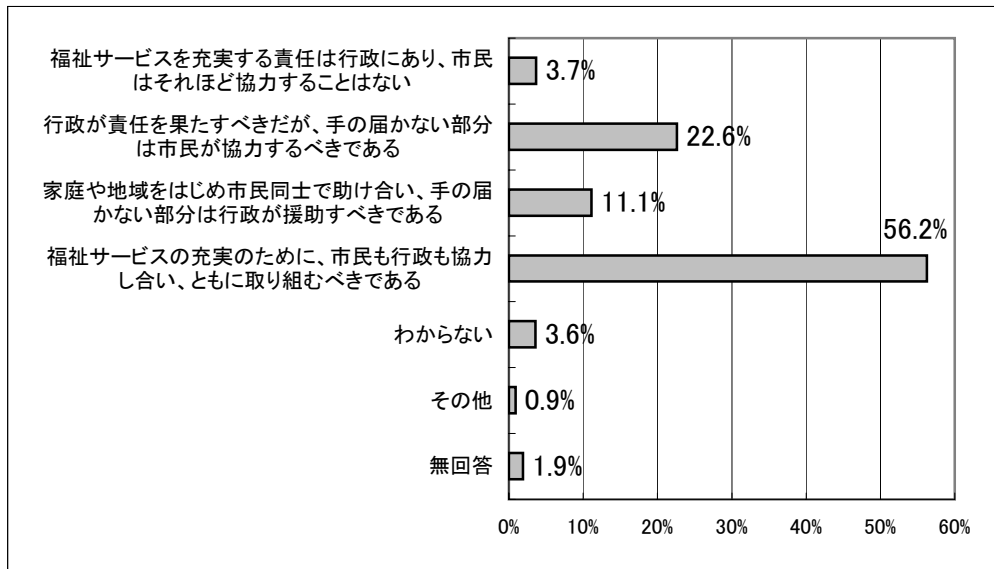
第1位は「個人の負担が増えるのはよくない。国や自治体が負担すべき」の41.5%ですが、第2位の「個人の負担が増えるのはやむを得ない」も40.4%あり、近年の社会状況の中では、ある程度の個人負担にも理解度があることがわかります。



質問15. 福祉サービスを充実させていくうえで、市民と行政との関係はどうあるべきだとお考えですか。次のうちから1つ選んでください。

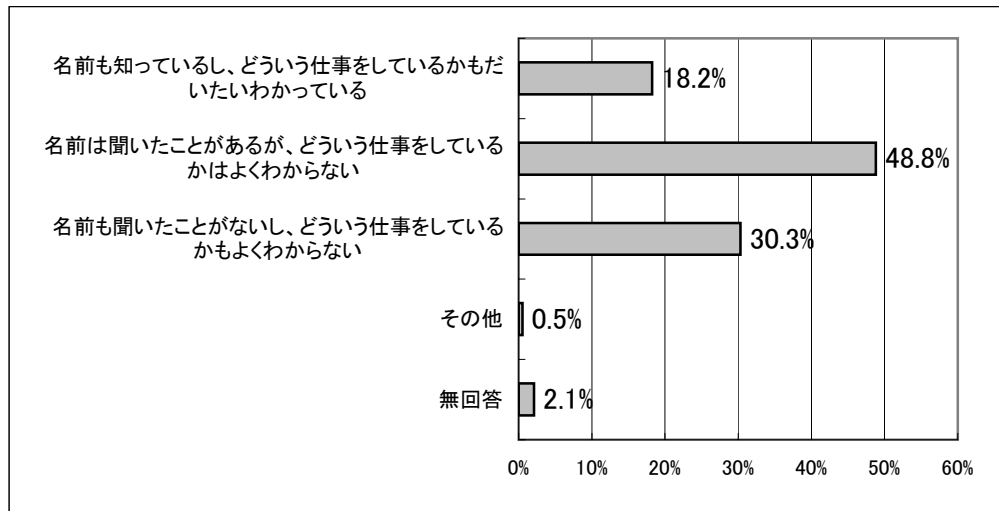
「福祉サービスの充実のために、市民も行政も協力し合い、ともに取り組むべきである」が半数を超えており、地域福祉を推進するうえで重要なテーマである「協働」への期待ができると考えられます。

また、「行政が責任を果たすべきだが、手の届かない部分は市民が協力するべきである」が22.6%、「家庭や地域をはじめ市民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助すべきである」が11.1%となっています。その一方で、「福祉サービスを充実する責任は行政にあり、市民はそれほど協力することはない」は3.7%しかありませんから、住民自治の意識が高いということがうかがえます。



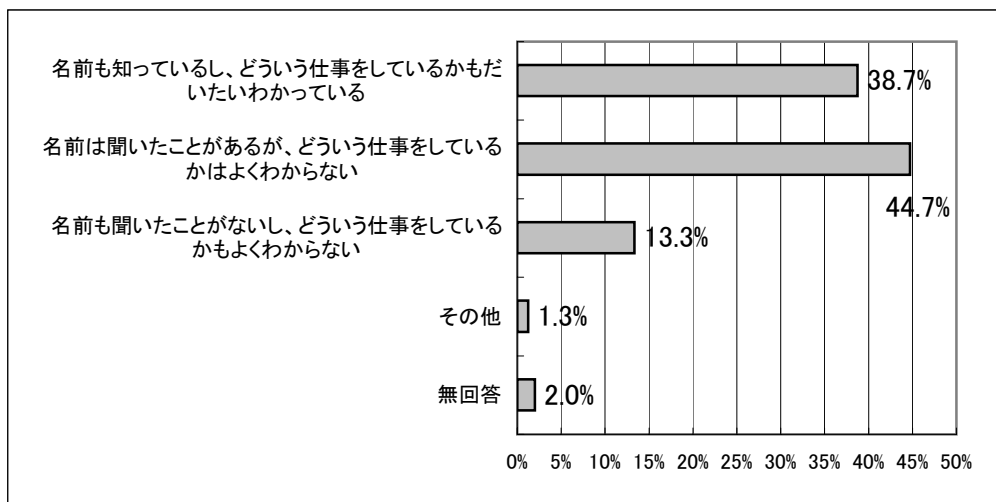
質問16. 市内には、おおむね小学校区単位で「地区社会福祉協議会」がありますが、そのことについてお聞きします。次のうちから1つ選んでください。

第1位「名前は聞いたことがあるが、どういう仕事をしているかはよくわからない」(48.8%)、第2位「名前も聞いたことがないし、どういう仕事をしているかもよくわからない」(30.3%)を合わせると79.1%にも達し、地区社協への認知度があまり高いことがわかります。



質問17. 市内には、おおむね町内会ごとに、「民生委員・児童委員」がいますが、そのことについてお聞きします。次のうちから1つ選んでください。

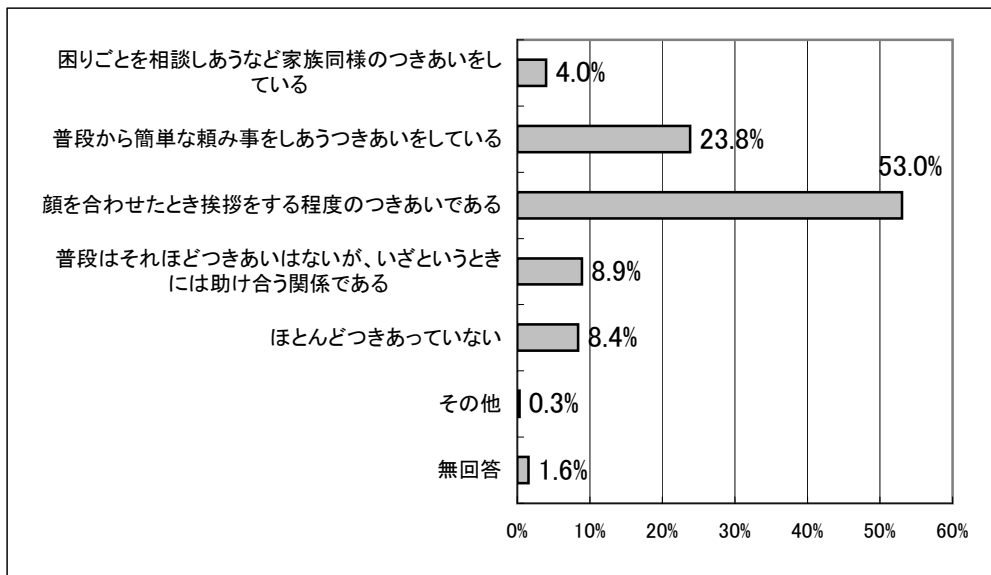
第1位は「名前は聞いたことがあるが、どういう仕事をしているかはよくわからない」の44.7%ですが、「名前も知っているし、どういう仕事をしているかもだいたいわかっている」も38.7%で、民生委員・児童委員への認知度はある程度高いことを示しています。



質問18. あなたは、ご近所の人と、どの程度のおつきあいがありますか。最も近い関係をあらわしているものを1つ選んでください。

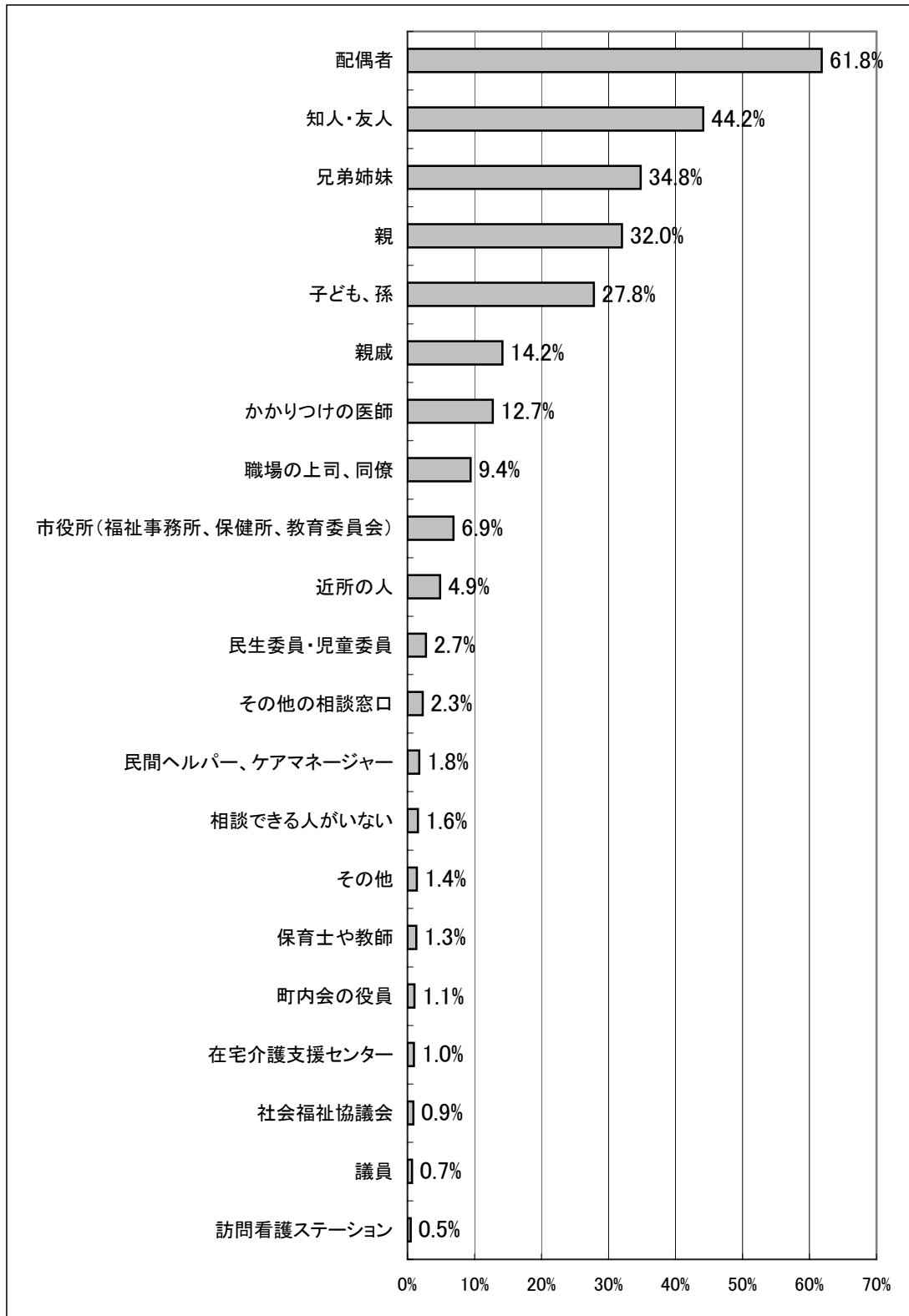
第1位は「顔を合わせたとき挨拶をする程度のつきあいである」(53.0%)、第2位は「普段から簡単な頼み事をしあうつきあいをしている」(23.8%)であり、隣近所との深いつきあいをしている人は少なく、地域でのつながりが希薄化していることが明らかになっています。

特に、「ほとんどつきあっていない」が8.4%にも達している状況にあります。



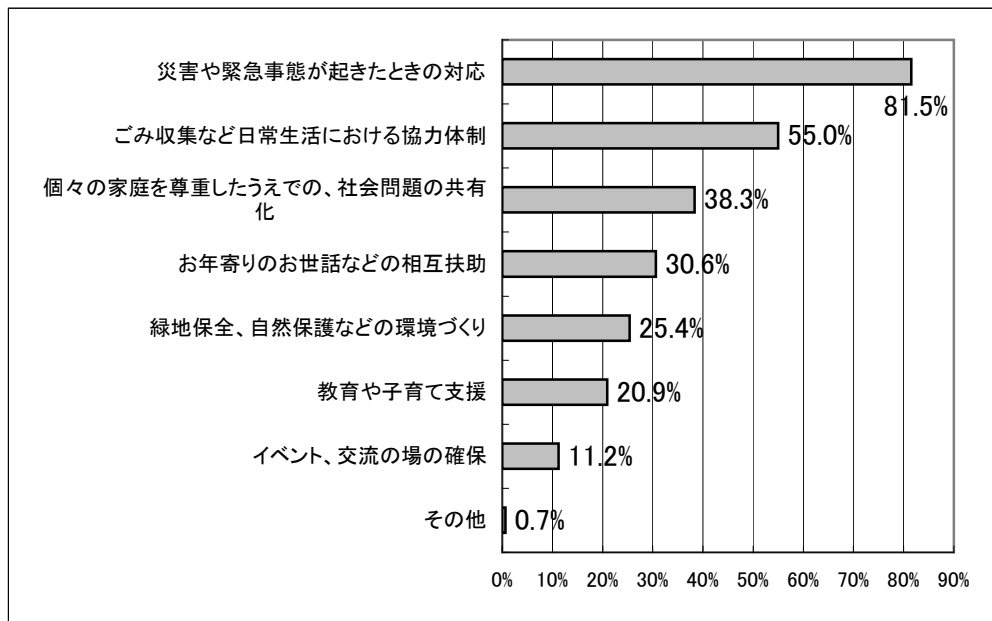
質問19. あなたは、日常生活の上での困りごとや、医療・福祉・教育などのことを誰に相談しますか。いつも相談する相手を3つまで選んでください。

2桁の割合を超えたのが、配偶者(61.8%)、知人友人(44.2%)、兄弟姉妹(34.8%)、親(32.0%)、子ども・孫(27.8%)、親戚(14.2%)、かかりつけの医師(12.7%)で、相談相手は血縁関係が多いことがわかります。



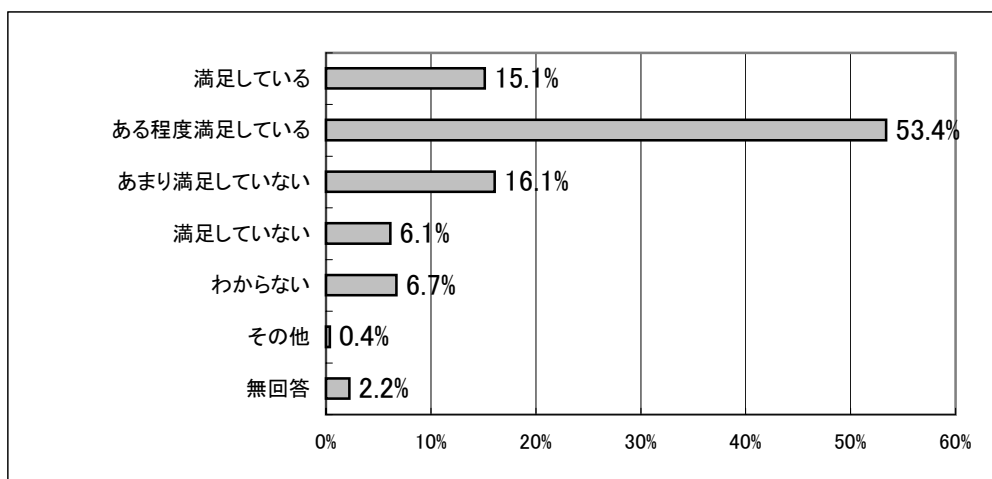
質問20 . あなたは、地域社会の役割についてどのようなことを期待しますか。次のうちから3つまで選んでください。

第1位は「災害や緊急事態が起きたときの対応」(81.5%)、第2位は「ごみ収集など日常生活における協力体制」(55.0%)、第3位は「個々の家庭を尊重したうえでの、社会問題の共有化」(38.3%)、第4位は「お年寄りのお世話などの相互扶助」(30.6%)というように地域の共同体としての機能を求めている割合が高いことがわかります。



質問21 . あなたは今住んでいる地域社会について満足していますか。次のうちから1つ選んでください。

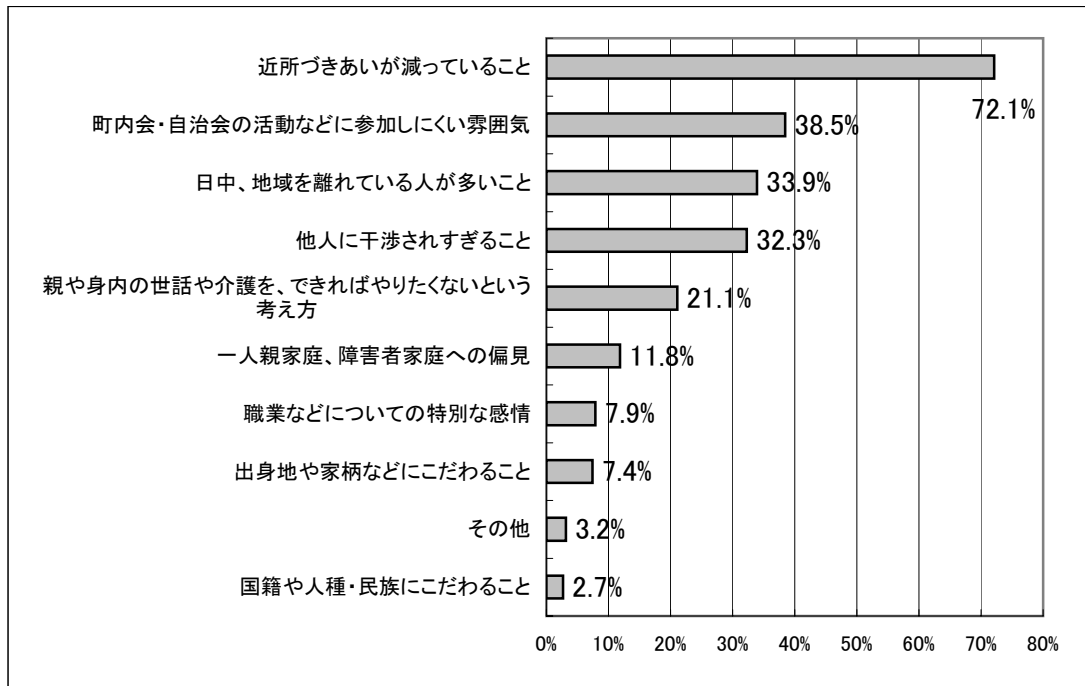
「ある程度満足している」(53.4%)「満足している」(15.1%)を合わせると68.5%となり、「あまり満足していない」(16.1%)「満足していない」(6.1%)の合計22.2%を大きく上回ります。秋田市での生活について、ある程度は住みやすさを感じていると思われます。



質問22. 住民がお互いに力を合わせて、住みよい地域社会を実現していくうえで、問題となることは何だと思えますか。次のうちから3つまで選んでください。

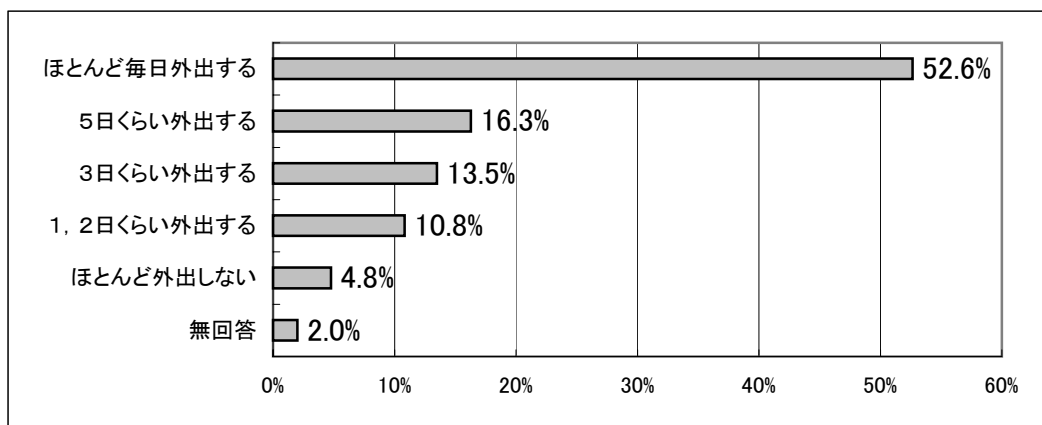
第1位は「近所づきあいが減っていること」(72.1%)で、高い割合を占めており、地域福祉を推進するうえで、最も重要な課題のひとつになると考えられます。

なお、「他人に干渉されすぎること」が32.3%もあり、地域福祉を推進するにあたっては、プライバシーへの配慮も大きな課題となります。



質問23. あなたは、週に何日くらい外出(通学、通勤、買い物等を含む)しますか。次のうちから1つ選んでください。

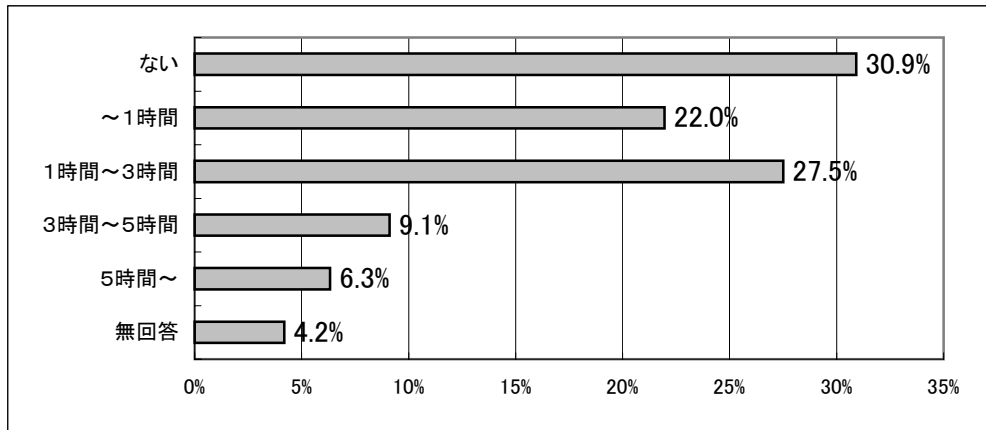
第1位は「ほとんど毎日外出する」(52.6%)で全体の半数以上を占めているほか、ほとんどの人は週に何回かは外出していることがわかります。



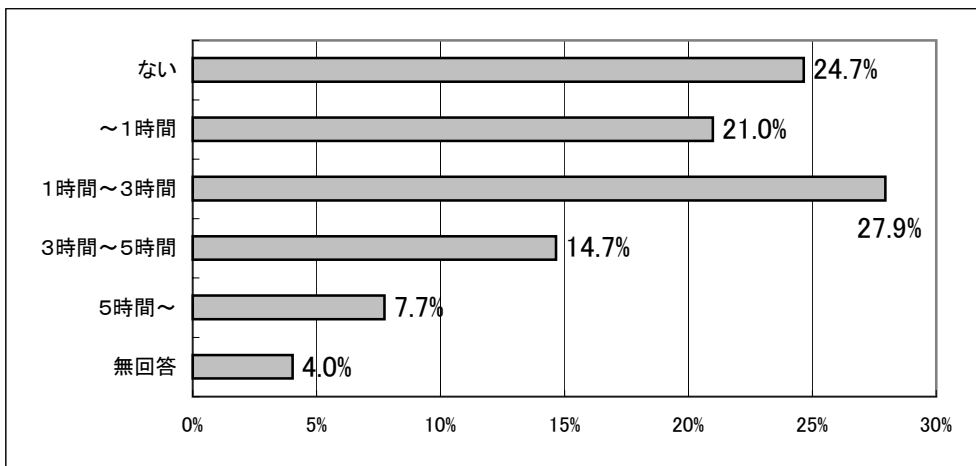
質問24. あなたは、一日のうち、自由に使える時間（余暇時間）をどれくらいお持ちですか。朝、昼、夜に分けて、それぞれ1つずつ選んでください。

余暇時間がないという人が、朝は30.9%、昼は24.7%もいますが、夜には4.4%しかいません。多くの人が、夜にある程度のゆとりを持って生活していると考えられます。

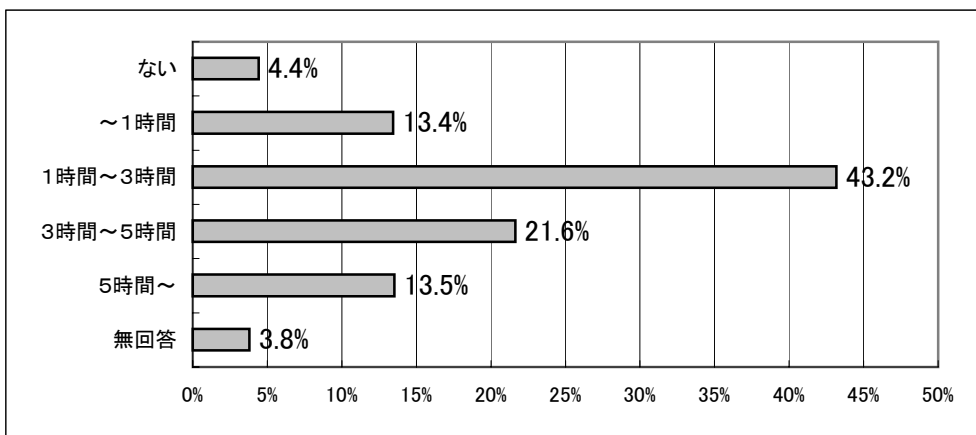
朝



昼



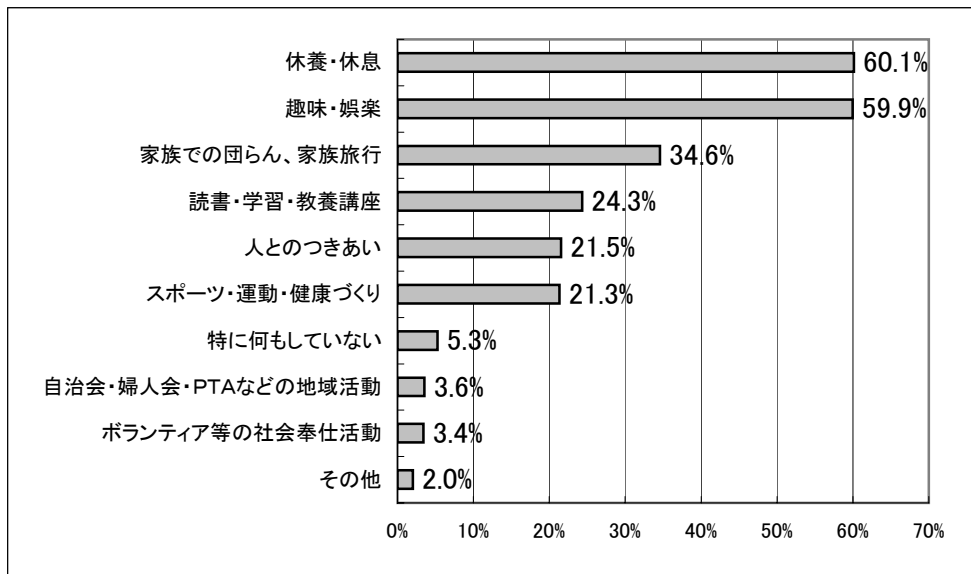
夜



質問25. 余暇時間を現在どのようなことに使っていますか。次のうちから3つまで選んでください。

「休養・休息」「趣味・娯楽」が1位、2位で高い割合を占めました。

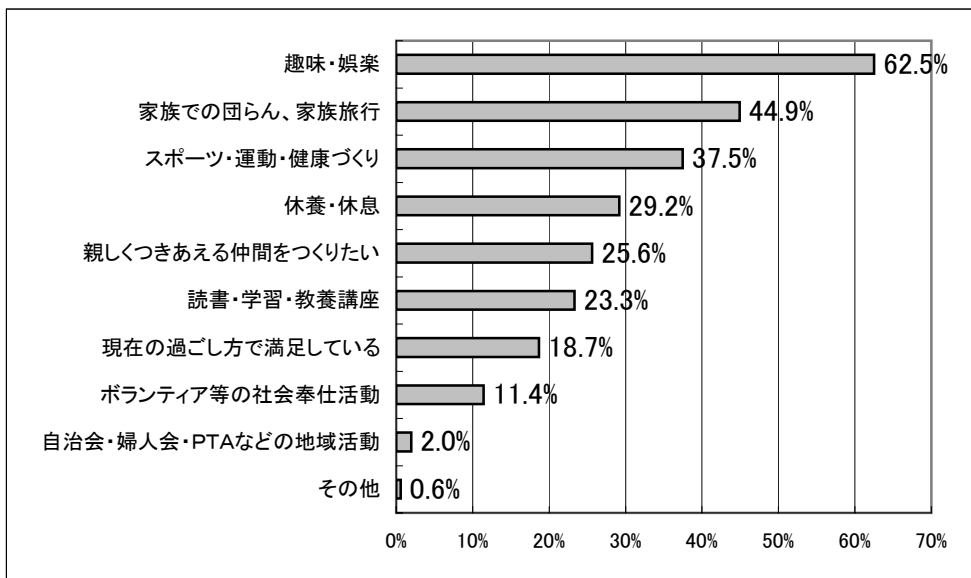
社会貢献の意識はかなり薄く、「自治会・婦人会・PTAなどの地域活動」「ボランティア等の社会奉仕活動」のふたつが、「特に何もしていない」の5.3%より低い数字になっていることは残念なことです。



質問26. 余暇時間を将来どのようなことに使いたいですか。次のうちから3つまで選んでください。

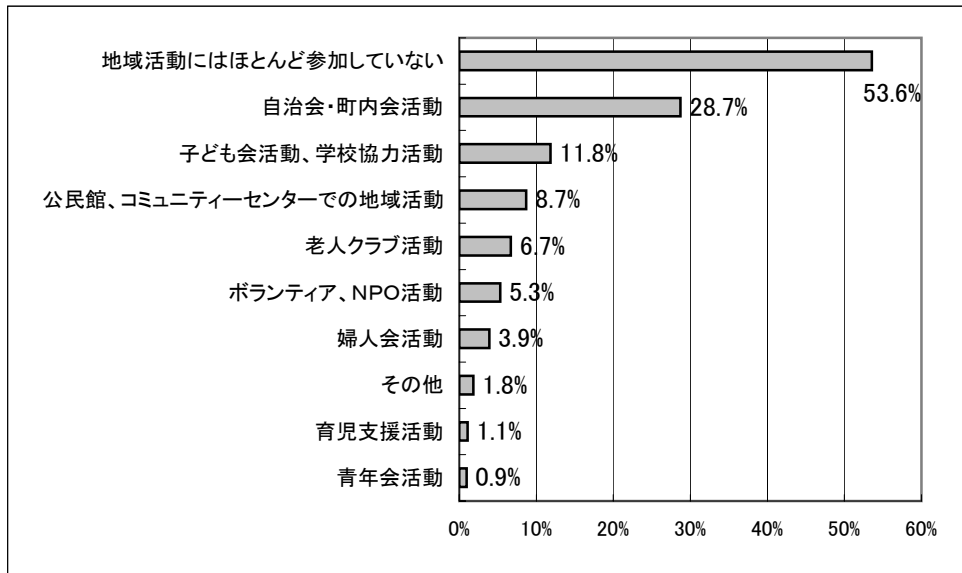
前の質問と比べると、「休養・休息」が半分以下になり、「家族での団らん、家族旅行」「スポーツ・運動・健康づくり」が伸びています。

また、「ボランティア等の社会奉仕活動」の割合も11.4%と伸びていますので、この意欲度をどう実践に結びつけることができるかが、これからの大きな課題といえます。



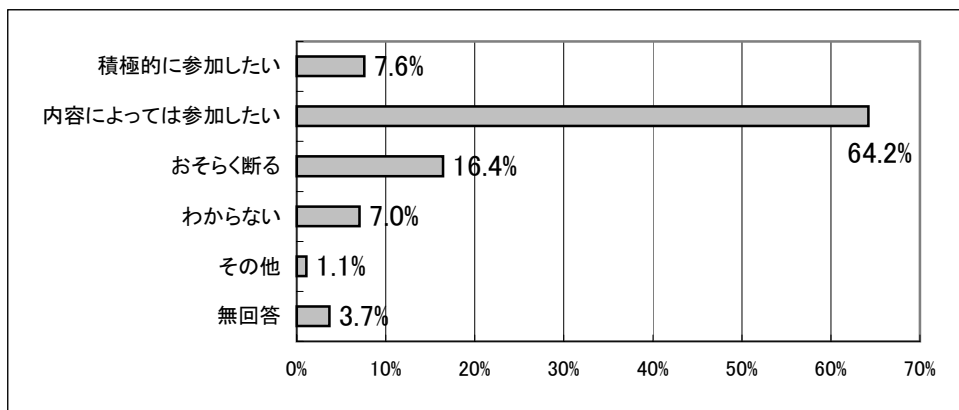
質問27. あなたはどのような地域活動に参加していますか。次のうち多く参加しているものから3つまで選んでください。

「地域活動にはほとんど参加していない」(53.6%)が第1位で、ここでも、地域でのつながりが希薄化していることが明らかになっています。



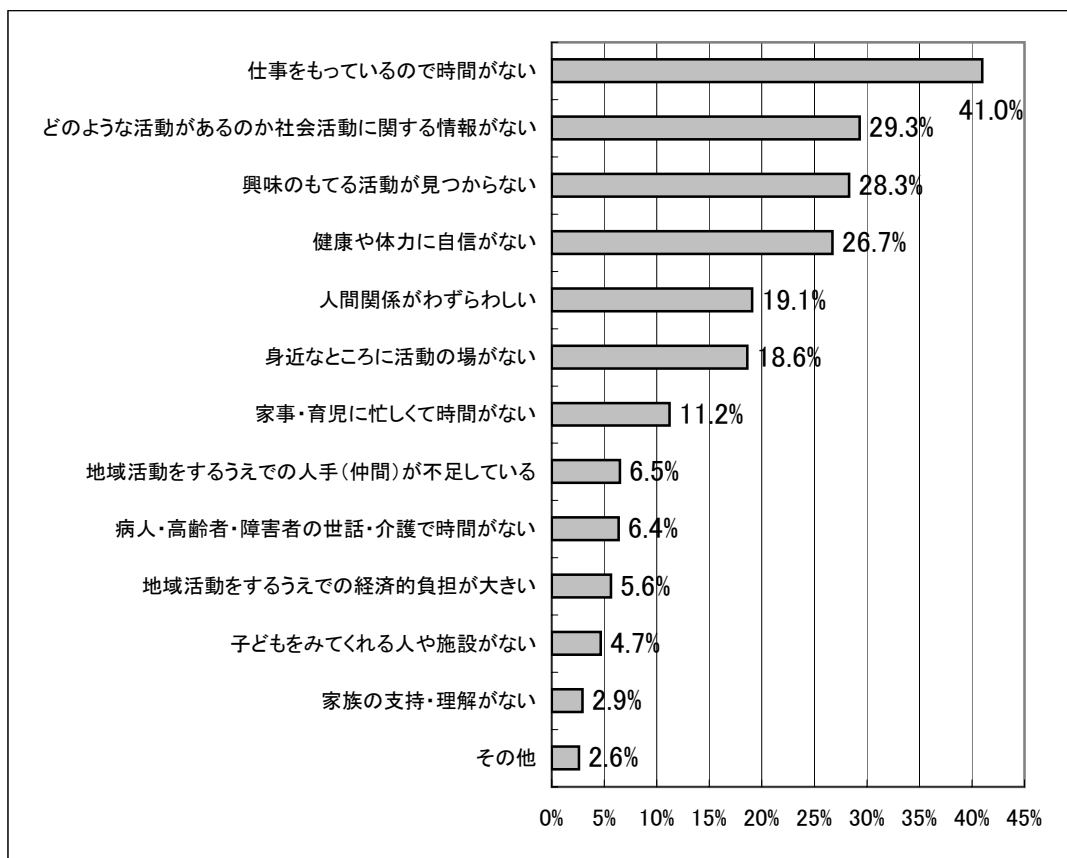
質問28. 地域活動への参加の依頼があった場合、あなたはどのようにしますか。次のうちから1つ選んでください。

「内容によっては参加したい」と思っている人が60%を超えており、きっかけさえあれば地域活動への参加率は上昇すると考えられます。こうした意欲度をどう実践に結びつけることができるかが、これからの大きな課題といえます。



質問29. あなたが地域活動に参加するうえで、支障になることがありますか。次のうちから3つまで選んでください。

第1位の「仕事をもっているので時間がない」(41.0%)は、ある程度やむを得ないとしても、「どのような活動があるのか社会活動に関する情報がない」(29.3%)「興味のもてる活動が見つからない」(28.3%)が上位にきていますので、情報提供の方法などを工夫すれば、地域活動への参加者を掘り起こせる可能性が十分あるといえます。



質問30 . 最後の質問です。あなたは「地域」というと、どのくらいの範囲をイメージしますか。次のうちから1つ選んでください。

「町内会単位」が41.9%を占めており、秋田市の土地柄は、「町内会」を最も身近な地域として意識していることがわかります。

今後、ワークショップ等を開催していく場合においては、その情報や内容が、いかに町内会まで浸透していくかが大きな課題となると考えられます。

